

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 42

Grant Green 【グラント・グリーン】

～ブルージー＆ファンキーな名ジャズ・ギタリスト～



Photo from "First Recordings" / Grant Green (Phoenix)

Profile

1935年6月6日、米国ミズーリ州セントルイス生まれ（1931年生まれという説もある）。12歳の頃からプロ活動を開始。ゴスペル・バンドやジョー・マーフィーのバンド等に所属し、当初はブギウギやロックンロールを演奏していたが、チャーリー・クリスチャン、チャーリー・パーカー等の影響を受け、ジャズに傾倒。初レコーディングはジミー・フォレストの作品。地元セントルイスで活動後、ルー・ドナルドソンのツアーに参加。59～60年頃にそのドナルドソンに誘われニューヨークに進出し、ドナルドソンの紹介でブルーノートの創始者アルフレッド・ライオンと出会い、ブルーノートと契約。翌61年に初リーダー・アルバム『グラント・ファースト・スタンド』をレコーディング以降、リーダーとサイドマンとしても数多くの録音を残し、60年代のブルーノートを代表する人気アーティストとなる。シングル・ノートによるブルージー且つソウルフルなギター・スタイルは、ソウル・ジャズのムーブメントを盛り上げる。68年に麻薬で逮捕され、翌69年出所。その後は、ジェームス・ブラウンに影響を受けたファンクスタイルで人気を博した。78年はほとんどの時間を病院で過ごしたが、医者へのアドバイスを聞かずに活動を再開。“George Benson's Breezin' Lounge”に出演中の1979年1月31日、自身の車の中で心臓発作の為に倒れて、息を引取った。享年43歳。その死後、80年代末から90年代にかけて、レア・グルーヴ／アシッド・ジャズのブームと共に人気が再燃。2001年には長年お蔵入りとなっていたウィントン・ケリーを迎えたグリーンの初リーダー・セッションを収録した『ファースト・セッション』が初CD化される等、現在も数多くのアーティストに影響を与え続けている。

グラント・グリーン
ブルーノート初リーダー・アルバム



グラント・ファースト・スタンド グラント・グリーン

(ユニバーサルミュージック：TOCJ-6510)

グラント・グリーン (g)、ペイビー・フェイス・
ウィレット (org)、ベン・ディクソン (ds)

1. ミス・アンズ・テンポ 2. 木の葉の子守歌
3. ブルース・フォー・ウィラリン 4. ペイビー・
ズ・マイナー・ロープ (他、全 6 曲)

ブルー・ジューズで哀愁漂うグリーン
のギターの魅力が際立つアルバム



アイドル・モーメンツ グラント・グリーン

(ユニバーサルミュージック：UCCQ-5061)

グラント・グリーン (g)、ジョー・ヘンダー
ソン (ts)、ボビー・ハッチャーソン (vib)、
デューク・ピアソン (p)、他

1. アイドル・モーメンツ 2. ジャン・ド・フル
ル 3. ジャンゴ 4. ノマド 5. ジャン・ド・フル
ル (ファースト・ヴァージョン) (他、全 6 曲)

グラント・グリーン
ブルーノートでのラスト・アルバム



ライブ・アット・ザ・ライトハウス グラント・グリーン

(ユニバーサルミュージック：TOCJ-50503)

グラント・グリーン (g)、クロード・バーテ
ィ (ss, ts)、ゲリー・コールマン (vib)、
シェルトン・ラスター (org)、他

1. ハンク・スチュワートのアナウンス 1 2. ウ
ィンドジャマー 3. ベッチャ・バイ・ゴーリー・ワ
ウ (他、全 11 曲)

2001 年に発表された『ファースト・セッション』は一部の曲が本作より前に録音されたため、そちらをブルーノート初リーダー作品と位置付ける向きもあるが、アルバムとしては本作を初リーダー作品と考えたい。ペイビー・フェイス・ウィレット、ベン・ディクソンとのトリオで 1961 年に録音。スタンダードの他、ブルース・フィーリング溢れる「ア・ウィー・ビッド・オ・グリーン」等、ブルース・ゴスペルにスポットを当てたナンバーを収録。

オープニングを飾るタイトル曲は「無為の時間」として、デューク・ピアソンが録音時の様子と共に LP ジャケットのライナーで語っているが、グリーンの哀愁漂うプレイは必聴。本作は MJQ の「ジャンゴ」の名ヴァーでも人気だが、長年グリーンがレコーディングを望んでいた曲だけあって仕上がりは極上。録音は 1963 年。ボビー・ハッチャーソン、ジョー・ヘンダーソン等、ブルーノート新主流派が参加したセクステット作品。

ブルーノートのジャケットにしてはデザインがちよっとイタダケナイが、サウンドは最高。グリーンの乗りまくったギター・プレイと持ち味のファンキーさが炸裂し、客席共々興奮 & 白熱の雰囲気が充滿。1972 年 LA 「ライトハウス」でのライブを収録したグリーンのブルーノート・ラスト作品。ライブ盤としては『アライブ!』も有名だが、グルーヴ感と熱気度では本作が上。ウィルトン・フェルダーの重くグルーヴィーなベースも聴き所。

グリーン唯一 & ブルーノート初のサントラ盤

1972 年にリリースされたグリーン名義のアルバム『ザ・ファイナル・カムダウン』は同名映画のサントラ盤で、ウェイド・マーカーが作曲・編曲・指揮を担当。チャード・ティ、ゴードン・エドワーズ、グラディ・テイト、バーナード・パーディ等の他、オーケストラとの共演も楽しめ、タイトル曲の「ザ・ファイナル・カムダウン」等、いかにもブラック・ムービーっぽいスリリングなサウンドと濃厚なファンク・サウンドが炸裂する作品。グリーンの特異作で唯一のサントラ盤、そして、ブルーノート初のサントラ盤としても必聴。機会があれば、映画も見たい。

グラント・グリーン・ジュニア

本名はグレッグ・グリーン。グラント・グリーンが 20 歳の頃、1955 年に生まれた息子でサウスポーのギタリスト。1996 年にグレッグ・グリーン & フレンズ名義でリリースした父親へのトリビュート・アルバム『グラント・グリーン賛歌』を経てソロデビューを果たし、その後はグラント・グリーン・ジュニアと名乗り活動中。2009 年にはリューベン・ウィルソン (org)、バーナード・パーディ (ds) とのトリオで『ザ・ゴッドファーザー・オブ・グルーヴ』というアルバムをリリースし、来日も果たしている。父親の DNA を受け継ぎながら、同じ道を歩んで活躍している。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.15

~ Take Five【テイク・ファイヴ】~

この曲はポール・デズモンドが作曲し、1959 年にレコーディング & リリースされたデイヴ・ブルーベック・カルテットのアルバム『タイム・アウト』に収録された名曲。曲名の由来にもなった「5/4 拍子」という珍しいリズムで構成されていることでも有名な曲。1961 年に「Billboard Hot 100」で 25 位を記録した他、多くの映画、テレビのサウンドトラックとして使用され、名スタンダードとして多くのアーティスト達にカヴァーされ親しまれ続けている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

デイヴ・ブルーベック・カルテット『タイム・アウト』
カーメン・マクレエ『テイク・ファイヴ・ウィズ・カーメン・マクレエ』
アル・ジャロウ『ライヴ・イン・ヨーロッパ』
ハクエイ・キム『トライオニク』
ジャッキー・テラソン『テイク・ジス』